

第2章 調査結果概要

【文化的な体験や活動に対する関心について】

- 約8割の人が文化的な体験や活動に関心を持っており、性別や年代、収入状況にかかわらず。（問1、P.9・90）
- 文化的な体験や活動に関心を持つ理由では、「好き・楽しいという理由」のほか、「自身が創作活動を行っているから・関心があるから」、「精神や生活が豊かになるから」が多いです。一方、関心を持たない理由では、「他のことに関心がある」のほか、「余裕や鑑賞・体験機会がないから」が多いです。（問2、P.10～11）
- 過去1年間に何らかの文化的な催しや物事を鑑賞した人は8割強です。分野では、「映画」、「美術・デザイン」、「音楽」が多いです。（問3、P.12）
- 鑑賞状況は、女性で、かつ若い世代が多く鑑賞している傾向があります。収入状況のよい人の方が比較的鑑賞していることが分かりました。（問3、P.13・91）
- 鑑賞行動を子どもの有無でみると、未就学児のいる世帯の人では、その他に比べて鑑賞意向を持ちながらも、実際には鑑賞できなかった人（約2割）が多くなっています。また、未就学児のいる世帯の人では、鑑賞した人でも満足していない人が多くなることが分かりました。（問3・6、P.81・82）
- 鑑賞・体験に際しては、約8割の人が「武蔵野市外」で行うことが多いです。しかし、60歳以上の人は比較的「市内の公立施設」を利用していることが分かりました。子どもの有無や子どもの年齢による違いは見られませんでした。（問4、P.15・82）
- 過去1年間で鑑賞意向を持ちながらも実際には鑑賞しなかった人は全体の1割未満でした。鑑賞しやすくなるための条件としては、「施設へのアクセスの良さ」と「手ごろな価格で鑑賞できる」ことが多くなっています。未就学児がいる人では、「託児サービス」よりも「子どもといっしょに鑑賞できること」の方が多く望まれています。（問7、P.20・83）
- 過去1年間で鑑賞しなかった（鑑賞したいと思わない人）は全体の1割未満でした。鑑賞しない理由は、「関心をひく催し物が行われていない」ほか、「ほかのことに時間を使っている」も3割いました。（問8、P.22）

【文化的な活動について】

- 現在、何らかの文化的な活動をしている人は3割程度でした。過去に活動していた人は2割程度おり、合計すると約半数の人が何らかの文化的な活動をしたことがあります。（問9、P.24）
- 活動状況については、鑑賞行動とは異なり、収入状況や、子どもの有無、子どもの年齢による違いは見られませんでした。（問9、P.83・93）
- 居住年数が長い人や地域活動をしている人ほど、文化的な活動をしていることが分かりました。ただし、地域活動の内容としては文化的な活動（「音楽や美術など、文化的な活動に参加している」）は特に多いわけではありません。（問9・23、P.24～25・64・106）
- 文化的な活動をしている人のうち、「アーティストや作家」、「クリエイティブ職」、「指導者」など、プロとして活動している人は2割半ば、約1割が「アーティスト・作家」として活動しています。（問10、P.26）

- 指導者やボランティア活動、趣味のグループ・サークルとして活動している人で何らかの課題を感じている人は6割弱おり、その内容としては、「時間」や「施設」、「仲間」、「発表の場」に関する課題を挙げています。(問10-1、P.28)
- 指導者やボランティア活動、趣味のグループ・サークルとして活動している人の活動場所としては、「武蔵野市外」の施設を利用する人が4割弱、「市内公立施設」が約2割、自宅を含む「市内のその他の場所」を利用する人が1割強となっています。(問10-2、P.30)
- 活動をはじめた理由としては、「余暇の充実」や「趣味を持つため」が多くなっています。(問11、P.32)
- 過去に活動をしていた人が、その活動を止めた理由としては、「時間的な制約」が特に多くなっていました。それ以外では、「活動費用」、「場所」、「仲間」にかかわる理由が見られました。(問12、P.34)
- 活動したことがない人は、「時間的な制約」のほか、「鑑賞で十分」だと思っている人が多くなっています。また、「気軽にやってみる機会がない」という理由も続きます。(問13、P.36)
- 子どもの文化的な鑑賞・体験・創作については、約8割の子どもの何らかの活動をしています。「映画鑑賞」(5割半ば)が多いほか、「音楽の習い事」や「コンサート鑑賞」をしている人が多くなっています。(問29、P.68)
- 子どもの文化的な活動状況は年収状況によってやや上下しますが、状況にかかわらず8割前後の世帯の子どもの何らかの活動をしています。(問29、P.97)

【武蔵野市のイメージについて】

- 「身近に自然を感じられるまち」というイメージが特に多くなっています。そのほか、消費活動にかかわるイメージ(「さまざまな食」、「知る人ぞ知る店やスポット」)や「美しい景観・街並み」が多くなっています。(問14、P.38)
- 上記のイメージは、年代や性別によって大きく異なることはなく、居住年数の長短にかかわらず共通しています。(問14、P.39・108)
- 「身近に美術や音楽を楽しめる」というイメージは多くありませんでした。ただし、過去1年間で鑑賞した人や鑑賞意向のある人、文化的な活動をしている人はそのイメージが比較的多くなっています。(問14、P.38・99)
- 地区別にみると、吉祥寺地区では「多様な住民が住むまち」が多くなっています。中央地区では、「身近に音楽を楽しめるまち」という印象が持たれています。武蔵境地区は、消費活動にかかわるイメージは他の2地区より低く、景観・街並みや地域コミュニティにかかわるイメージの方が多くなっています。(問14、P.79)

地区の分類について

上記の吉祥寺地区、中央地区、武蔵境地区については、居住地区に関する設問(問30)の選択肢を次のように分類したものです。

◆吉祥寺地区…吉祥寺東町、吉祥寺南町、御殿山、吉祥寺本町、吉祥寺北町

◆中央地区…中町、西久保、緑町、八幡町 ◆武蔵境地区…関前、境、境南、桜堤

- 武蔵野市の魅力となる場所としては井の頭恩賜公園が特に多く、公園や通り、景観、並木なども多々挙げられており、前述のイメージと共通していることが分かりました。(問16、P.42～43)
- さらに、市立施設では武蔵野プレイスが最も多く、市民文化会館、コミュニティセンター、吉祥寺美術館、図書館、スイングホールが続きます。民間では、著名なライブハウスやギャラリーが挙げられるなか、コピス吉祥寺やハモニカ横丁などの回答も少なくありませんでした。(問16、P.42～43)
- 魅力となる人物も、漫画家、俳優、芸術家、作家など、多様な人物が挙げられています。(問16、P.44)
- 武蔵野市が文化的なまちであるために必要なこととしては、「美術や音楽が身近に楽しめること」が多くなっているほか、「子どもが文化に触れること」、「歴史が身近で、大切にされていること」も挙げられています。(問15、P.40)
- 「高齢者・障害者が安心して暮らせること」も多くなっていますが、特に60歳以上の人が選択しています。(問15、P.40～41)
- 既存の資源である自然を、文化的なまちであるための要素と考える人が多い一方、文化的なまちであるための要素として必要とされている「美術や音楽が身近に鑑賞・活動できる場所があること」については、実際のまちのイメージとして感じられていないことが分かりました。(問15、P.38・40)
- 消費活動にかかわるイメージがあり、文化的な魅力としてはシンボリックな人物も多数挙げられているなか、消費にかかわる要素(「自分好みのお店やスポットがあること」)や人的資源(「創造的な市民・来街者がいること」)は、文化的なまちであるために必要なこととしては多く挙げられてはいません。(問14・15・16、P.38～45)

【市の文化施設について】

- 半数以上の人を利用したことのある施設は、武蔵野市民文化会館、武蔵野プレイス、中央図書館、吉祥寺図書館、各地区コミュニティセンター、武蔵野総合体育館です。(問17、P.46)
- 松露庵、武蔵野ふるさと歴史館、かたらいの道市民スペースを利用したことがある人が特に少ないほか、芸能劇場および吉祥寺シアターを利用したことのある人も比較的少なくなっています。(問17、P.46)
- 利用しない理由として「施設を知らない」の比率が多い施設は、松露庵、武蔵野ふるさと歴史館、かたらいの道市民スペースです。(問17、P.54)
- 松露庵、武蔵野ふるさと歴史館、かたらいの道市民スペースのほか、武蔵野芸能劇場と吉祥寺シアターは、利用しない理由として「利用する必要・機会がない」の比率が多くなっています。(問17、P.55)
- 求められている施設としては、「身近に文化に触れられる施設」、「市民の憩いの場となる施設」、「子どもが文化に触れられる施設」が特に多くなっています。回答者自身および子どもの文化体験が重視されている一方、「市外から多く多くの人を訪れる施設」は低くなっています。(問18、P.56)
- 過去1年間で鑑賞した人・鑑賞意向のある人、文化的な活動をしている人では「身近に文化に触れられる施設」が求められているのに対して、そうでない人は「市民の憩いの場となる施設」が求められ

ています。(問18、P.101)

- 求められている事業としては、「子どもが鑑賞・体験できる事業」、「芸術性の高い事業」が多くなっています。施設・事業ともに「子どもの文化体験」に対するニーズが高いことが伺えます。(問19、P.58)
- 特に子どものいる世帯の人では、子どものいない人に比べて、「子どもの鑑賞・体験の機会」に対するニーズが高くなっています。また、60歳以上の人では「高齢者や障害者も参加しやすい事業」が求められています。(問19、P.59・87)
- 過去1年間で鑑賞した人や文化的な活動をしている人では、特に「芸術性の高い事業」が求められています。(問19、P.102)

【市民と行政の取り組みについて】

- 文化的なまちであるために市民が行うとよいこととしては、「史跡や自然を大切にすること」、「自身や子どもが鑑賞・体験をするこ」とが多くなっています。文化的なまちであるための要素や市の文化施設での事業に対するニーズと整合した内容となっています。(問20、P.60)
- 文化的なまちであるために行政が行うとよいこととしては、「子どもの鑑賞・体験機会」が多いほか、「質の高い事業」へのニーズが高くなっています。事業数よりも質の高さを求める回答が多くなっています。(問21、P.62)
- 市民ならびに行政が行うこととしては、子どものいる世帯の人では、そうでない人に比べて「子どもの鑑賞・体験」に関する回答が多くなっています。また、60歳以上の人では「高齢者や障害者も参加しやすいこと」が求められています。(問20・21、P.61・63・87・88)

【市の文化施設について：各施設の概要】(問17、P.46～55,110～139)

施設名称	概要
武蔵野市民文化会館 立地：中央地区	<ul style="list-style-type: none">○6割以上の人利用したことがあり、若い世代も半数以上が利用したことがあります。○文化に関心のない人や鑑賞、文化的な活動をしていない人も5割以上が利用したことがあります。○利用しない理由としては、「施設を知らない」は図書館について少なく、「利用する必要・機会がない」も少なくなっています。
武蔵野芸能劇場 立地：中央地区	<ul style="list-style-type: none">○利用したことのある人は約2割となっており、特に若い世代の利用が少なくなっています。○文化に関心のある人や鑑賞、文化的な活動をしている人も利用したことのある人は2～3割となっています。○利用しない理由としては、「施設を知らない」が3割弱ですが、利用の少ない若い世代では5割程度となっています。○「利用する必要・機会がない」という理由は4割半ばとなっています。○利用しない理由のうち「施設を知らない」は3割弱ですが、「利用する必要・機会がない」は4割半ばにもなります。

施設名称	概要
武蔵野公会堂 立地: 吉祥寺地区	<ul style="list-style-type: none"> ○5割弱の人が利用したことがあります。 ○若い世代、特に男性において利用が少なくなっています。 ○利用しない理由としては、「施設を知らない」が1割半ばですが、うち10～20歳代の男性では4割となっています。
武蔵野スイングホール 立地: 武蔵境地区	<ul style="list-style-type: none"> ○4割半ばの人が利用したことがあります。 ○若い世代の利用が、男性・女性ともに少なくなっています。また、年齢が低くなるほど、利用しない理由として「施設を知らない」が増えます。 ○武蔵境地区の利用が特に多く、利用しない理由も「施設を知らない」が他地区よりも少なくなっています。
吉祥寺美術館 立地: 吉祥寺地区	<ul style="list-style-type: none"> ○3割半ばの人が利用したことがあります。 ○60歳以上での利用が多くなっている一方、30～50歳代の男性での利用が、他の世代に比べて少ないです。 ○文化に関心のない人では、利用したことがない人が8割を上回ります。 ○吉祥寺地区の利用が、他の2つの地区に比べてやや多くなっています。
松露庵 立地: 武蔵境地区	<ul style="list-style-type: none"> ○利用したことのある人は1割未満です。 ○文化への関心や鑑賞・活動状況、世代にかかわらず、利用は少なくなっています。 ○利用しない理由としては、「施設を知らない」が5割弱となっており、15の施設のなかで最も多くなっています。 ○「利用する必要・機会がない」という理由についても、4割を上回ります。
吉祥寺シアター 立地: 吉祥寺地区	<ul style="list-style-type: none"> ○利用したことのある人は約2割です。 ○文化に関心のある人や鑑賞、文化的な活動をしている人も、利用したことのある人は約2割です。 ○利用しない理由としては、「施設を知らない」が2割半ばとなっています。 ○「利用する必要・機会がない」という理由は4割半ばで、15の施設のなかで最も多くなっています。 ○「知らない」から「施設を利用しない」は2割半ばですが、「利用する必要・機会がない」は4割半ばにもなります。
武蔵野ふるさと歴史館 立地: 武蔵境地区	<ul style="list-style-type: none"> ○利用したことのある人は約1割で、文化に関心のある人や鑑賞、文化的な活動をしている人も1割程度となっています。 ○利用しない理由としては、「施設を知らない」が4割強です。特に10～20歳代の男性で多くなっています。 ○「利用する必要・機会がない」も4割半ばとなっています。 ○武蔵境地区の利用が、他の2つの地区に比べてやや多くなっています。
武蔵野市民会館 立地: 武蔵境地区	<ul style="list-style-type: none"> ○4割弱の人が利用したことがあります。 ○60歳以上の利用が多くなっています。特に60歳以上の女性は約半数が利用したことがあります。 ○利用しない理由としては、「施設を知らない」が2割強となっており、最も多い10～20歳代の女性も4割程度です。 ○武蔵境地区の利用が、他の2つの地区に比べて多くなっています。

施設名称	概要
武蔵野プレイス 立地:武蔵境	<ul style="list-style-type: none"> ○5割半ばの人が利用したことがあります。 ○若い世代における利用も多く、年代で見ると男性・女性ともに10～20歳代で利用したことがある人が最も多くなります。 ○利用しない理由としては、「施設を知らない」が1割半ば、「利用する必要・機会がない」が2割半ばと、比較的少なくなっています。 ○武蔵境地区の利用が特に多くなっています。
中央図書館 立地:中央地区	<ul style="list-style-type: none"> ○6割強の人が利用したことがあります。文化への関心による利用状況の違いは見られますが、鑑賞・活動状況による違いはありません。 ○世代や地区にかかわらず、施設を知らないことで利用したことがない人は少なくなっています。 ○中央地区の利用が、他の2つの地区に比べて多くなっています。
吉祥寺図書館 立地:吉祥寺地区	<ul style="list-style-type: none"> ○5割程度の人が利用したことがあります。 ○世代や地区にかかわらず、施設を知らないことで利用したことがない人は少なくなっています。 ○吉祥寺地区の利用が、他の2つの地区に比べて多くなっています。
各地区コミュニティセンター 立地:市内全域	<ul style="list-style-type: none"> ○6割強の人が利用したことがあります。 ○文化的な活動をしている人の利用は特に多くなっています。そのほか文化への関心や鑑賞の有無による大きな違いは見られません。 ○年齢が上がるにつれて利用が多くなりますが、10～20歳代も5割程度が利用したことがあります。 ○利用しない理由のうち「施設を知らない」は1割未満となっており、「利用する必要・機会がない」も約2割と少ないです。
かたらいの道市民スペース 立地:中央地区	<ul style="list-style-type: none"> ○利用したことのある人は1割未満です。 ○文化への関心や鑑賞・活動状況、世代にかかわらず、利用は少なくなっています。 ○利用しない理由としては、「施設を知らない」が5割弱、「利用する必要・機会がない」も4割程度となっています。 ○中央地区の利用が、他の2つの地区に比べて多くなっています。
武蔵野総合体育館 立地:中央地区	<ul style="list-style-type: none"> ○約6割の人が利用したことがあります。 ○利用したことのない理由としては、「施設を知らない」は1割未満となっており、年代や地域による違いはほとんど見られません。

※利用したことのない理由である「施設を知らない」、「利用する必要・機会がない」の割合はP.54～55の数値を参照しています。